



昔は憩いの場 「一里塚」

茅ヶ崎駅北口ロータリーから国道1号の一里塚交差点までの道を「一里塚通り」と呼んでいます。名前の由来となると江戸時代までさかのぼります。

江戸幕府が東海道を整備する際、旅人の歩く目安として、一里（約4km）ごとに塚を築きました。そして、休憩場所になるように、松やエノキを植えたそうです。

なぜエノキなのでしょう？ 徳川家康がある奉行に「よい木を植えよ」と言ったのを、「エノキを植えよ」と聞き間違えたという説があります。これが本当の話かどうかは分かりませんが、エノキは根が強く、枝も広範囲に伸びるため、多くの旅人にとって憩いの場となったようです。

交差点付近にある塚は、江戸から数えて14番目。古くは2基ありましたが、道路の拡張工事などにより、今は1基のみとなっています。市ではこの塚を、市の指定史跡として大切に保存しています。

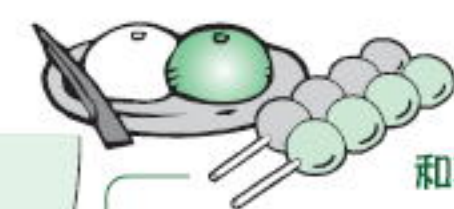
今回の発見！

一里塚通り

お茶屋
相模川で遊船を始めようと、先々代が静岡県の島田から移転。その後お茶屋になったということもあり、静岡の川奈茶を多く扱っている。店内には、江戸時代に使用された古いつぼや、昭和初期の相模川の写真などがあり、「街角博物館」といった感じ。



和菓子屋
今はなくなりましたが、小和田にあった店ののれん分けとして、昭和初期にこの通りに店を構えました。「一里塚」と焼印を押した、おいしい和菓子が自慢です。



このコーナーでは、本市の「都市資源」を、いろいろな形で紹介しています。



一里塚

一里塚通り



国道1号
至藤沢

床屋

「三角床屋」の愛称で親しまれ、現代版「道しるべ」のひとつ。お店の外観はかなり個性的。



肥料屋

創業は古く大正時代。小出方面から多くの人々が肥料や種・苗などを買いに来ました。まだ当時は、店主の名前を引用し「市幸（いちこう）通り」と呼んでいたそうです。



模型店

入口にあるヘリコプターが目印！



茅ヶ崎駅

JR東海道線

相模線

ロータリー